



令和元年12月15日  
第828号

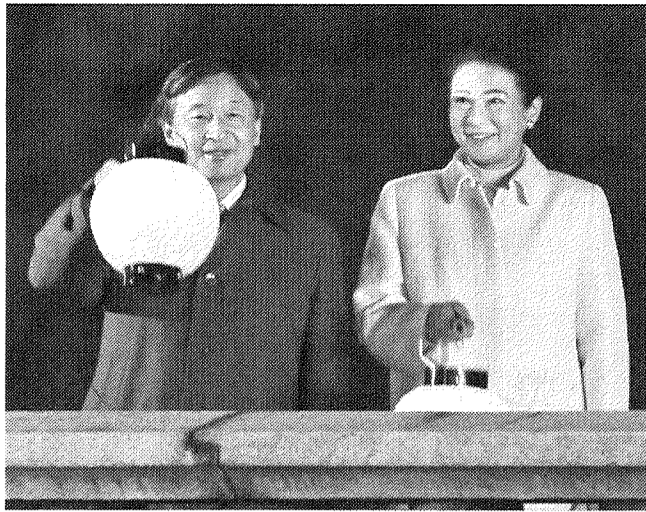
一般財団法人日本遺族会  
〒100-0001 東京都千代田区  
九段南一丁目六番一七号  
千代田会館三階  
電話 03-3261-5521  
03-3261-6253  
00160-6-25389  
編集 発行人 盛川英治  
毎月1回15日発行  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

# 祝 天皇陛下御即位

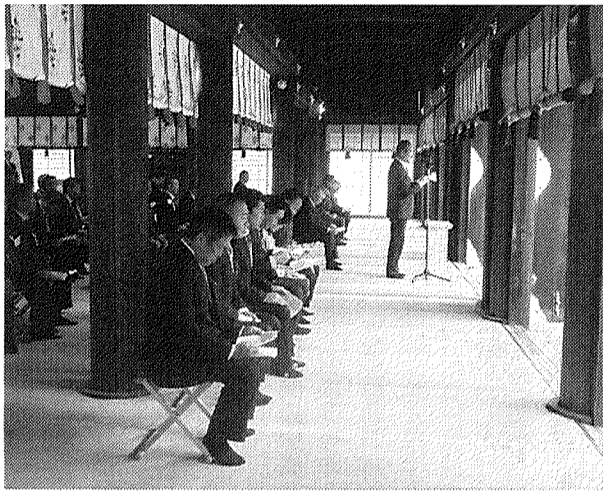
## 「国民祭典」挙行される

「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」が十一月九日、皇居前広場を中心に行われた。午後一時半過ぎに始まった「奉祝まつり」では、全国各地の郷土芸能や音楽隊のパレード、奉祝みこしなどが披露され、「祝賀式典」では安倍晋三内閣総理大臣をはじめ各界代表者が祝辞を述べ、天皇皇后両陛下の御即位をお祝いのした。



ちょうちんを掲げられる両陛下

国民祭典は、天皇陛下即位奉祝国会議員連盟(会長 伊吹文明・元衆議院議長、天皇陛下御即位奉祝委員会(会長 三村明夫日本商工会議所会頭、公益財団法人日本文化興隆財団(理事長 田中恆清神社本庁総長)が主催し、各府庁、東京都、千代田区などが後援した。祭典は二部構成で、第一部「奉祝まつり」の祝賀パレードでは、警視庁音楽隊、東京消防庁音楽隊、全日本鼓笛バンド、フォームバトン連盟の音楽隊と奥州江刺百鹿大群舞(岩手)、沖縄エイサー(沖縄)など全国各地の郷土芸能十五団体が参加して、内堀通りの桔梗門前まで約二千二百人が行進した。



奉告参拝で祭文を奏上する辻正人青年部長  
=11月23日、靖国神社で

日本遺族会青年部は、平成二十九年三月の結成以来、初めて単独での研修会を十一月二十三日に開催し、三十三支部より孫、ひ孫、甥、姪、オブ

## 青年部研修会を開催

### 靖国神社へ68人が奉告参拝

研修会を十一月二十三日、靖国神社・靖国会館に参集し同十分、西山尚利副部長の進行により古賀十幸副部長の開会の辞で始まり、はじめに水落敏栄会長に代わり宇田川剣雄副会長が挨拶。続いて辻正人青年部長、来賓の山口建中靖国神社宮司が挨拶。市来健之助副会長、畔上和男専務理事を紹介した。日程説明後、参加者は靖国神社参集殿へ移動、青年部結成奉告の後、参加者全員で本殿に進み、代表者が玉串を奉奠し、

倍総理大臣をはじめ各界の著名人、関係者や一般公募による参加者一万人を含む三万人が参加した。午後六時過ぎ、参加者が提灯に明かりを灯してお迎えするなか、天皇皇后両陛下は皇居前広場を一望できる皇居二重橋(正門石橋)にお出ましになり、三村会頭が式辞を、安倍総理大臣が祝辞を述べた。次に、この日のために作られた「奉祝曲 組曲 Ray of Water」が披露された。奉祝曲は三楽章で構成され、オーケストラが楽曲を奏するなか、ピアノの辻井伸行氏の演奏や人気アイドルグループ「嵐」の挨拶があった。その後、遊就館、昭和三十三回奉納菊花展が十月十六日から十一月五日にかけて開催された。十一月二十六日には、靖国会館において奉納菊花展の表彰式が行われ、次の作品に日本遺族会会長賞が贈られた。

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

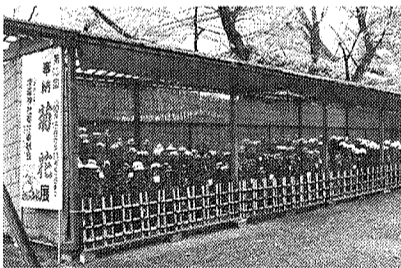
「祝賀式典」では、安

「祝賀式典」では、安

## 第64回奉納菊花展

### 靖国神社で開催

靖国神社において第六十四回奉納菊花展が十月十六日から十一月五日にかけて開催された。



吉川敏雄  
(順不同 敬称略)

## 声なき声

11月23日、本会青年部が結成の奉告をするために初めて靖国神社に昇殿参拝をした▼辻正人青年部長は「今日の平和と繁栄が、皆様方の尊い礎の上に築かれたことを心に深く銘記し、二度とあの悲惨な戦争が起こることのないように、私達はさらに決意を新たに、世界の恒久平和実現のため、一層の力を尽くします」と、全国から集まった青年部員を代表して靖国神社に眠るご英霊に誓われた▼昭和35(1960)年12月4日、全国遺族青少年代表1800人が九段会館に一堂に会し、日本遺族会青年部の結成大会が盛大に挙行されるに至った。大会は若さを誇る青年の集いらしく熱と力にみちあふれ、まさに遺族会の前途に光明を思わせるものがある。と記されていた。(本紙 昭和36年1月30日、第123号)

親会を開催。懇親会では水落会長が「戦争の悲惨さを語り継ぎ、世界の恒久平和を希求する活動をしていきましょう」と挨拶した。

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

親会を開催。懇親会では

未来へつなぐ 靖国の心

# 初詣は靖国神社へ

本殿にて参拝しましょう

◎主な催し 新春福引き・全国神社奉納絵馬展・振舞い酒・甘酒(無料)

靖国神社社務所 電話 03-3261-8326  
公式ホームページ <http://www.yasukuni.or.jp/>

# 令和 援護事業功労者 元年度 本会関係者39支部97人が受賞

勳章 表彰 労表 生臣 厚大

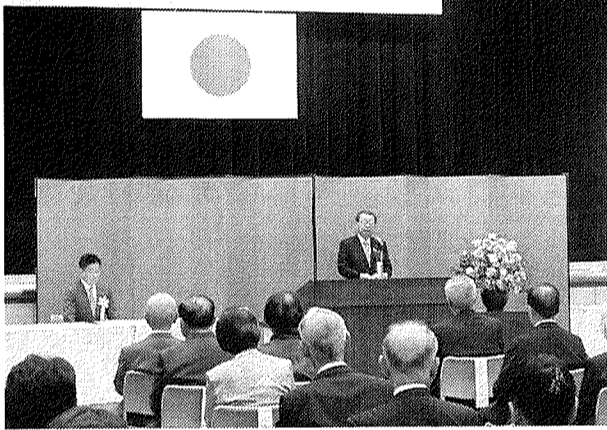
令和元年度援護事業功労者厚生労働大臣表彰式が十二月五日、東京・霞が関の中央合同庁舎五号館講堂で挙行された。長年にわたり戦没者遺族、戦傷病者、引揚者等の援護事業に携わり尽力された功績が顕著な方々、百二人が表彰された。このうち日本遺族会関係者は三十九支部九十七人が栄えある受賞に輝いた。

十二月五日、多年にわたり援護事業に尽力しその功績を称えらるるとともに、その労苦に報いるため、厚生労働大臣から授与される全国の被表彰者が厚生労働省に集まり、表彰式が催された。本会関係者は三十九支部から九十七人が「援護事業功労者厚生労働大臣表彰」の栄誉に輝いた。表彰式は午前十一時に開式し、国歌斉唱後、加藤勝信厚生労働大臣が挨拶、表彰に移り、司会者より被表彰者の名前が読みあげられると場内から拍手が沸き起こった。加藤厚生労働大臣より被表彰者百一人を代表して長野県三井寛氏(身元未判明孤児肉親調査員)に表彰状と記念品が授与された。次に、来賓として水落敏栄本会会長が「本年は、平成から令和の御代を迎え、新しい時代が幕を開けました。この記念すべき年に、栄えある表彰を受けられた皆様方の永年のご労苦に対し深く敬意を表しますとともに、心よりお祝いを申しあげます」と祝辞を述べた。

最後に被表彰者を代表して今田勇雄氏(石川県遺族連合会理事長)が謝辞を述べて表彰式は閉会した。

式終了後、本会関係の被表彰者はバスで靖国神社に移動し昇殿参拝を行い、御霊に奉告した後、

## 援護事業功労者表彰式



援護事業功労者表彰式で祝辞を述べる水落敏栄本会会長 = 12月5日、厚生労働省で



被表彰者を代表して謝辞を述べる今田勇雄氏(石川県遺族連合会理事長) = 12月5日、厚生労働省で

- 飯田橋のホテルメトロポリタンエンドモントに場所を移し、本会主催による厚生労働大臣被表彰者祝賀会に出席した。
- 表彰された本会関係の方々は次のとおり。
- 【北海道】 前田勇三郎、今藤正美、青木幸江、佐々木スミ、青森、高橋滋、雪田一雄、加藤ノブ、瀧本ヤツエ(岩手)、菅沼克敏、高野正雄、森本浩吉、久保稔、秋田、加賀
  - 【岩手】 菅沼克敏、高野正雄、森本浩吉、久保稔、秋田、加賀
  - 【秋田】 加賀
  - 【山形】 菅野正章、布施義旦、茨城、鈴木一成、大森博、太田照江、小林孝夫、静園、遠藤千代江、稲一夫、大石功、群馬
  - 【茨城】 鈴木一成、大森博、太田照江、小林孝夫、静園、遠藤千代江、稲一夫、大石功、群馬
  - 【群馬】 稲一夫、大石功
  - 【栃木】 井上清行、加藤紀久、山梨、武井邦夫、長野、池
  - 【長野】 池
  - 【山梨】 武井邦夫、長野、池
  - 【東京】 屋金雄、鈴木絹子、市川徹、山形、菅野正章、布施義旦、茨城、鈴木一成、大森博、太田照江、小林孝夫、静園、遠藤千代江、稲一夫、大石功、群馬
  - 【神奈川】 柴田俊
  - 【千葉】 海老原仁市、埼玉
  - 【埼玉】 海老原仁市、埼玉
  - 【大阪】 内宜訓(石川)、今田勇雄、高須賀三六(高知)、坂本米村智恵子、奈倉博(福岡)、岡本龍雄、黒川武志、井田富田武司、福嶋美智子、田原豊数(愛知)、隅田敏廣、中村博幸、渡邊田圭子、西川安房(岐阜)、小林敬典、山田節子、熊澤光子(三重)、立嶋昌洪(滋賀)、西田惣次郎(奈良)、森井美千子、松尾敏一、前田勝弘(和歌山)、美野勝男、古田光名子、服部康伸(京都)、高橋弘和、伊藤章子、岩田佳枝(大阪)、花谷昌男、山田勝行(鳥取)、池本敏美、奥田寛(鳥根)、山崎義典、田中幸次、小林茂(広島)、橋本直、平田修己、猪垣臣子(山口)、塩飽尚子(香川)、高本博文、大西暁、鎌田昭夫(徳島)、上田道夫、井上真、池添哲哉(愛媛)、清家征子、白石春雄、

## 南方四地域で現地調査 未送還遺骨の情報収集

### 未送還遺骨の情報収集

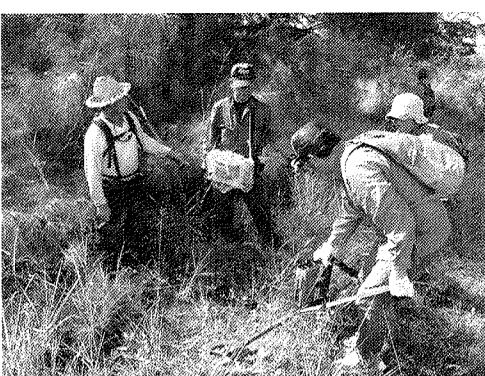
日本戦没者遺骨収集推進協会が実施する、海外に未だ残されている未送還の遺骨情報収集等を行う現地調査に、本会は参加協力を行った。

加協力を行った。ビスマーク・ソロモン諸島現地調査第5次派遣は、十月二十二日から十一月一日の期間で実施した。

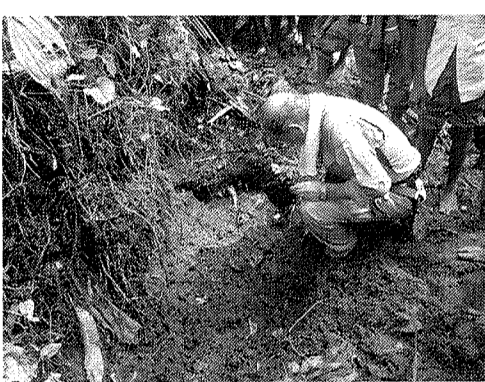
派遣団は、ソロモン諸島ガダルカナル島のマムラ川中流に位置するマムラ村周辺、ホニアラ飛行場から南に四キロ程の場所で行った。

東部ニューギニア現地調査第5次派遣は、十一月九日から二十二日の期間で実施した。

派遣団は、東セピック州山南地域のマブリック、ヤングール西方クン



地中を入念に探査する派遣団員ら=グアム島で



東セピック州の山南地区で試掘調査を実施

イモモサ周辺で調査を行った。

マリアナ諸島現地調査第5次派遣は、十月三十日から十一月八日の期間で実施した。

派遣団は、グアム島北部のジーゴ慰霊公園周辺、ハガツニヤ(旧明石市)、西方アサン及びニミツヒル、アガット(旧昭和町)、北方テンジョウビスタ、アガット湾、ディービーチ付近海軍基地バックゲート等で調査を行った。

東部ニューギニア現地調査第5次派遣は、十一月九日から二十二日の期間で実施した。

派遣団は、東セピック州山南地域のマブリック、ヤングール西方クン

## 樺太・占守島 マリアナ諸島 で12柱を収容 厚生労働省へ引き渡す

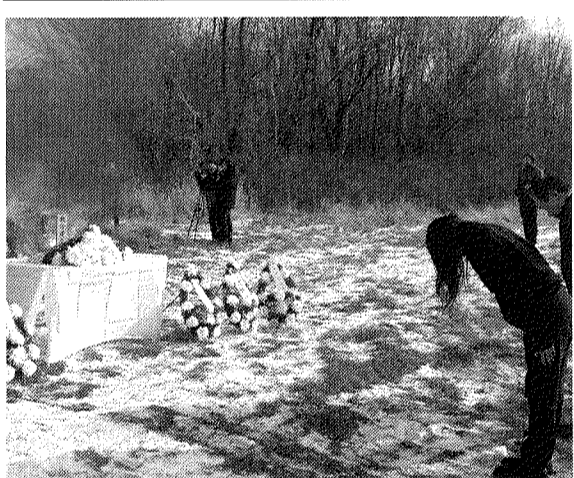
JARRWC

日本戦没者遺骨収集推進協会(JARRWC)は、樺太・占守島、マリアナ諸島の遺骨収集派遣を実施し、十二柱の遺骨が日本に奉還された。

樺太・占守島戦没者遺骨収集派遣団は、十一月六日から十四日の期間で任務にあたった。ロシア連邦サハリン州スミルヌイフ地区で、現地関係団体のロシア調査運動が占守島で発見収容した遺骨を受領、遺骨鑑定により七柱の遺骨を奉持し十三日帰国した。

翌十四日には、厚生労働省援護会議室で遺骨拝礼式が行われた。

マリアナ諸島遺骨収集派遣団は、十月十一日から二十二日の期間でサイ



収容した遺骨を茶毘に付して焼骨・追悼式を挙行 = スミルヌイフで



遺骨を捧持して仮安置する派遣団員 = 11月21日、KKRホテル東京で

パン島で任務にあたった。これまでグアム、サイパン、テナアン島内の現地調査で、北マリアナ諸島歴史保存局に預けている遺骨の整理と鑑定と、遺骨の付着物の除去作業を派遣団の手から厚生労働省職員へ引き渡された。

行い、五柱の遺骨を奉持し二十一日帰国した。

翌二十二日には、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で遺骨引渡式が行われ、遺骨が派遣団の手から厚生労働省職員へ引き渡された。



本会の活動

▼日本遺族会青年部研修会 11月23日 詳細は1面に記載。

▼事務局長打合せ会 12月9日 第75回全国戦没者遺族大会の運営等について。

内宜訓(石川)、今田勇雄、高須賀三六(高知)、坂本米村智恵子、奈倉博(福岡)、岡本龍雄、黒川武志、井田富田武司、福嶋美智子、田原豊数(愛知)、隅田敏廣、中村博幸、渡邊田圭子、西川安房(岐阜)、小林敬典、山田節子、熊澤光子(三重)、立嶋昌洪(滋賀)、西田惣次郎(奈良)、森井美千子、松尾敏一、前田勝弘(和歌山)、美野勝男、古田光名子、服部康伸(京都)、高橋弘和、伊藤章子、岩田佳枝(大阪)、花谷昌男、山田勝行(鳥取)、池本敏美、奥田寛(鳥根)、山崎義典、田中幸次、小林茂(広島)、橋本直、平田修己、猪垣臣子(山口)、塩飽尚子(香川)、高本博文、大西暁、鎌田昭夫(徳島)、上田道夫、井上真、池添哲哉(愛媛)、清家征子、白石春雄、

# 好問友訪 慰親 靈善 慰親 各地で亡き父に語りかける

日本遺族会では、戦没者遺児による慰親友好親善事業のボルネオ・マレー半島、フィリピン、マリアナ諸島の各地域をあいづいで実施し、全国から戦没者遺児が三地域に総勢百人が参加した。亡き父の眠る地において、慰親追悼を行うとともに小学校や病院等の施設を訪問、さらに植林活動等の友好親善を図った。

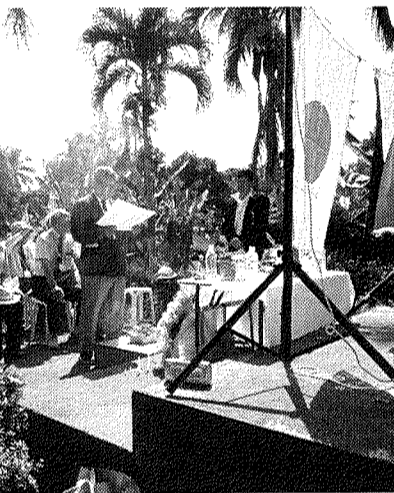
ボルネオ・マレー半島に第一歩を押し、それ安齋満本会評議員(福島県遺族会会長)を団長とするボルネオ・マレー半島慰親友好親善訪問団は、十月二十九日全国の遺児代表十人が東京の靖国会館で結団式を行い、三十日シンガポールを経由し彼の地で慰親のため翌二十一日、マレーシア最南端の都市ジョホールバ



孤児院を訪問し学用品等を寄贈後、子どもたちと唄や踊りで交流を深める=11月2日、ラナウのブンダートゥハン地区で

シオンが立ち並ぶ近隣の公園、サンダカン死の転進の行軍路となったラナウ、ミリ北西遙か海域が一望に見渡せるカナダヒルでそれぞれ慰親追悼を行い、亡き父の冥福を祈った。その後ラバン島に渡り、幾度も斬込が繰り返され守備隊玉砕となった飛行場で慰親追悼を行い、家族の近況報告をし亡き父を弔った。

老人施設では車椅子を寄贈し意見交換がなされた。十一月六日、ラバン島の「ボルネオ戦没者の碑」において、在コタキナバル領事事務所の加古志保所長参列のもと、全戦没者追悼式を挙行し、英霊に感謝と哀悼の誠を捧げ、七日帰国の途についた。フィリピン



亡き父に積年の思いを語りかける団員=11月12日、ダバオ市カタルナンで

午後、首都のマニラに到着した一行は六班に分かれ、それぞれ亡き父の縁の地へ移動し、翌日から慰親巡拝を行った。また、ルソン島のA・B班はマニラ市内のタギック地区にある「無名戦士の墓」に赴き、碑に花輪を手向け敬意を表した。



「中部太平洋戦没者の碑」前において全戦没者追悼式を挙行=11月25日、サイパン島で

鳥戦没者の碑」前において全班揃って、全戦没者追悼式を挙行、ご英霊に感謝と追悼の誠を捧げた。また、友好親善事業では、各班とも現地で小学校と病院を訪問し、スポーツ用品、学用品、衣類、車椅子等を寄贈し、記念植樹を行うなど、子供たちや現地の方々とも友好を深めた。

十五日、所期の目的を果たした一行は、それぞれの思いを胸に全員無事に帰国した。マリアナ諸島 永澤庄一郎本会常務理事を総括団長とするマリアナ諸島慰親友好親善訪問団は十一月二十日、全国の遺児代表三十人が靖国会館に集合し結団式を行

## 遺児の参加者募集 慰親友好親善事業

募集要項はつぎのとおり。▼時期及び地域 実施概要参照 ▼参加費 10万円 ※東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通機関はご自身の手配になる。また、移動に係る国内交通費及び帰国

り寄せていただき、記入項目に不明な点(戦没者の部隊等)があれば各遺族会に相談し、条件を満たした上で提出願いたい。なお、申込多数の場合は選考となる。▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目全てに記入を要するの

護師が同行する。▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目全てに記入を要するの

護師が同行する。▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目全てに記入を要するの

## 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰親友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

●郵便振替 001302-694929 ●みずほ銀行 九段支店 普通預金 008030 ●口座名義は「一般財団法人日本遺族会」です。二ホンソウカイ

## 実施概要

(広域地域)

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 フィリピン(2次)	令和2年 3月13日~3月20日	120人	令和2年 1月14日
2 中国	令和2年 3月23日~3月31日	80人	令和2年 1月23日

(特定地域)

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 ミャンマー	令和2年 2月25日~3月4日	36人	令和元年 12月23日

## 本会への 賛助金のお願い

本紙(同面)でもお願いしている本会への賛助金につきまして、ご賛同

## 本会への 賛助金のお願い

本紙(同面)でもお願いしている本会への賛助金につきまして、ご賛同

いたいただきました左記の方々に対し、お礼申し上げます。なお、大変恐縮ではございますが都道府県名については、送金方法により所在地が特定できない場合がありますので、省略させていただきます。

賛助者名(敬称略) カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等) 古閑稔明、堀文一、中山征勇、吉川愛子、川島茂夫、島重夫、島利夫、西茂俊明、百田節子、北爪江美子、梅澤弘一、佐藤修、御正山博明、村上雅彦、渡辺豊、三村政晴

小西峯子、吉田晴彦、奥澤伸一、日向野圭市、末永晃一、谷本英明、高畑美代子、瀬川依子、藤井孝子、山下巖、後藤尚武、林優彦、天野義昭、宮西艶子、大矢博文、松本洋雄、田中弘子、堀洋子、若松エイ、石井敏雄、松

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ 毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰(遺骨収集、慰親友好、慰親巡拝)、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。次世代を担う青年部(孫・ひ孫)の皆様も是非お申し込みを。 年間購読料/1,560円 (1年間12回 税金・送料込) お申込み 日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521

# 京都府と静岡県で

## 日章旗等を遺族へ返還

### OBONソサエティ

日本遺族会が厚生労働省から委託を受けている戦没者遺留品の返還に伴う調査事業は、本事業の協力団体であるOBONソサエティと再委託契約を締結し推進しているところである。今回OBONソサエティ代表が来日し、本会と今後の事業の進め方等について協議するとともに、京都府と静岡県で行われた返還式に出席し、アメリカから持参した遺留品を遺族に引き渡した。

来日したOBONソサエティ代表は、担当者と遺留品の効率的な調査方法、調査を実施するうえで直面する問題点等について真摯に話し合った。

翌二十日には、水落敏栄本会長、畔上和男専務理事と懇談し、一つでも多くの遺留品を返還できるよう、引き続き協力体制を強化していくことを確認した。

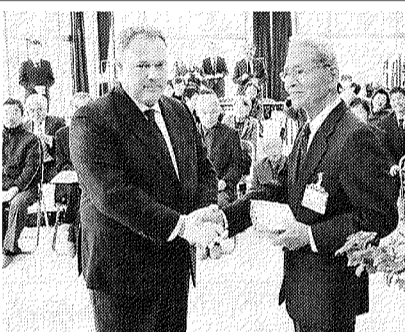
今回の来日で、OBONソサエティ代表は、京都府と静岡県で行われた返還式で引き渡す遺留品を持参した。京都府では、ともにレイテ島で戦死した四方秀雄さんと小林松五郎さんの遺留品が、京都府遺族会の調査で遺族が判明した。十一月二十四日の綾部市公民館での返還式には、四方秀雄さんの遺留品(アルバム)の保管者であるケニア在住のジャラット・チョブラさんが来日し、弟の四方保さんに直接アルバムを引き渡した。

また、静岡県ではニユーギニアで戦死した周智郡森町出身の永澤芳雄さんの日章旗が、森町遺族会の調査で遺族が判明した。十一月二十五日

に森町役場で開催された返還式で、甥の永澤秋高さんに日章旗が手渡された。受け取った秋高さんは「貴重な寄せ書きが届けられてうれしい。早速、墓前に報告したい」と語った。

秋田県遺族連合会女性部 結成60周年記念大会(97人)  
 ▼徳島県 11月9日 第62回語り部事業(30人)  
 ▼新潟県 11月11日 12日 市町村地区遺族会長・事務担当者並びに女性部・青年部合同研修会(84人)  
 ▼岩手県 11月14日 第63回岩手県戦没者遺族大会(840人)  
 ▼北海道 11月16日

令和元年度全道青年部研修会(40人)  
 ▼福岡県 11月22日 令和改元記念第68回福岡県戦没者遺族大会(1300人)  
 ▼山梨県 11月25日 令和元年度県下戦没者遺族大会(700人)  
 ▼富山県 11月29日 30日 令和元年度戦跡慰霊巡拝参加者の集い(40人)  
 ▼岡山県 11月30日 令和元年度岡山県戦没者遺族代表者会議(600人)



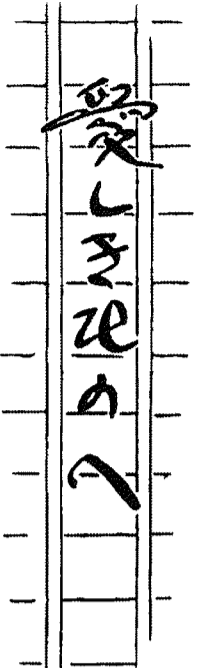
ケニアから来日したチョブラ氏からアルバムを受け取る四方保さん=11月24日、綾部市で



甥の永澤秋高さん(左端)にOBONソサエティ代表から日章旗が引き渡された。=11月25日、森町役場で

### 生還は期せず

陸軍衛生伍長 円城 知三  
 昭和十九年十二月十日  
 フイリピン・レイテ島ダナオ湖にて戦死  
 滋賀県犬上郡豊郷村出身 三十四歳



手紙 正に拝見致しました。子供の便りに嬉しく、折々読み直すと、同じものにも勝ります。同封の為替、当地にては如何ともなし難く、返送致します故、宜しく取り計らひ下さいますやう。

戦争も一刻と深刻になりました。自分も時折折れ残りを書き連ねますが、敢えて生還は期せず、南海の曙消え行く星の夜に喜んで入ります。高きうねりも、いつか風ぐことも有ります。その時は南の空に輝く星の数に入っているかも知れません。

お前に残す言の葉は無いが、行く末長き子等を思ふ時、自分も親である。強い様で弱い所もある。これだけは充分頼む。世の人に辱さらんことを切に望む。

七月一日

ヤエ殿

知三

【令和元年十二月靖国神社頭掲示】  
 (原文のまま)  
 愛しきものへ

## 九段短歌

選者 安元 百合子

今はなき特攻兵の声聞きて夜のしじまのビデオに涙す  
 富士吉田市 菅沼 勝由  
 毎年の追悼式に参列し遺児の私の八月終わる  
 富山県 酒井 映子  
 軍帽の金色の刺繍色あせず子孫に残す太平洋戦史  
 佐世保市 田中 暁  
 終戦日母の写真と黙禱す追悼式の平和の誓い  
 山形県 菊地 幸子  
 率先す日遺会長の巡拝に遺族も続き御霊おろがむ  
 加古川市 岡田 徹也  
 戦いを忘るなとまなこに訴える赤道直下の戦車の遺言  
 青森県 田中 恭子  
 猛烈な暑さと湿気の密林に遺骨収集隊の終りなき苦悶

母親に遺書投下せし戦機は敗戦三日後浅間に散りしといふ  
 小諸市 塩川 篤子  
 一房のシャイン供えし慰霊碑に今年も無事と柏手を打ち  
 甲州市 三森 一雄  
 つ父の日に思いたくれど戦死せし父の好物はまだ知らざり  
 佐世保市 富永八重子

新しい御代、令和元年も十二月となりました。五月に剣聖等承継・即位後朝見の儀があり、その後、即位礼正殿の儀、祝賀御列の儀、大嘗祭と皇位継承にかかわる行事がおそかに、そして雅びに挙行され、日本の国柄を身にしみて感じた年でありました。

また、台風十九号など豪雨も相つき、大きな災害に襲われた年でもありました。復旧も進まぬままに年末を迎え、日毎に増す寒さに被災された方々が安心して暮らす日が一日も早く訪れるよう祈るばかりです。皆様、どうぞよいお年をお迎えください。(選者)

## ミャンマー・マングレー等で 民間建立慰霊碑移設等事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間建立慰霊碑移設等事業で、十一月九日から十六日の期間で、ミャンマーに事務局

から二人を派遣し、厚生労働省が、管理状況等が不良であると判定した民間団体等が建立した慰霊碑を調査した。

派遣団は初めに、戦友会烈二四部隊がマングレー管区に四基、サガイン管区に二基、村に水道施設として井戸を寄贈した際に建立した慰霊碑

の管理状況を調査した結果、内四基は井戸も使用されておらず、慰霊碑は放置状態であったため、地権者等と相談し、埋設等の対象とすることとした。また、サガイン管区モニワ市のモニワ日本人墓地跡に建立された慰霊碑群を調査したところ、周辺がゴミの集積場になっており、常に生ごみ臭がする劣悪な環境にあるため、今後ミャンマー中央政府の許可を得て、サガ



小学校の敷地内で放置されている井戸と慰霊碑 =11月11日、マングレー管区カウソボ村で

### お詫び

本紙11月(第827号)発行の一面「秋の叙勲」の名前で岩男立男氏、年齢で小林茂隆氏(87歳)と表記しましたが、正しくは「岩男立夫氏」「小林茂隆氏(77歳)」の誤りでした。ここに訂正し深謝いたします。